

## 【熊本県賞】

### 「節水」とは何か

熊本県 嘉島中学校 三年 山口 由華

「どうしよう…。」

私がこう思ったのは中学校一年生のときの夏休みのことだ。部活が終わり家に入るうとしたときに気がついた。それは家の中に鍵を忘れてしまったことだ。この日はものすごく暑く、部活が終わった後だったのでも喉がかわいていた。でも、水筒の中身は部活中に全て飲んでしまったため空っぽだった。

「どうしよう…。このまま何も飲まずに、熱中症になったら。」

と心の中でつぶやいた。

その時に私は庭に水道があることを見つけた。

「よし。やっと飲める。」

と喜んだ。蛇口から出てきた水を飲むと生き返るくらいに元気になった。この時に飲んだ水は今までで飲んだ中で一番おいしかったジュースよりもはるかにおいしかった。

このことをこの日の夜にお母さんに話した。すると、

「嘉島は蛇口をひねると飲めるぐらい綺麗な水が出てくるけど、世界を見てみるとそうはいかないんだよ。」

とお母さんは言った。このことをきっかけに世界の水問題について目を向けてみた。

今、世界の水問題はどうなっているだろう。世界中には、安全に管理された飲み水を使用できずにいる人がおよそ二十二億人もいるそうだ。安全に管理されていない人は、寄生虫や病原体などを含んでいるため、飲み水として利用するのはとても危険だ。しかし、世界にはそのような危険な水を飲用水として利用したり、料理、手洗いなどに利用したりせざるを得ない人々もいる。また、世界には深刻な水不足に直面している地域もあるそうだ。このように世界では沢山の水問題がある。

私は水問題について自分ができることはないか考えた。それは「もっ

たいない」という言葉を常に頭に入れておくことだ。ほとんどの人が水を節約するときには、

「節水」

という節約することばかり考えている。

「節水って言うけどめんどくさいのはイヤだ。」

という人が多く、あまり節水ができていないように感じる。しかし、「節約」を「もつたいない」という言葉に変えることで、自分が「損」をした気分になって、水を無駄使いしにくくなるのではないかと思う。具体的な例として、

「髪をシャンプーで洗うときにシャワーの水を流したままにすると、一分間で十二リットルの水を損してしまうのでもつたいない」や

「お湯の沸かしすぎでもつたいない」

など身の回りでは様々な場面で「もつたいない」と感じる。このことを感じることによって、自分たちのくらしには欠かせない水を大切にできるのではないかと思う。

これからは、水が豊富な嘉島町で生活していく自分だからこそ、「もつたいない」を合言葉にして節水に取り組んでいこうと思う。また、「水」というものは自分のように助けてくれることもある。この二つの意味があるということを知って生活していきたい。